



信州青木村ふるさと景観100選

初雪の滝山、十観山

AOKI 青木村 議会だより

第76号

令和2年2月1日発行



発行／青木村議会
編集／議会報編集委員会
印刷／(株)アオヤギ印刷

✉ gikai@vill.aoki.nagano.jp



<http://www.vill.aoki.nagano.jp/gikai2.html>



どんど焼き

主な 記事

青木村議会だより
第76号

令和元年 第4回 定例会	2～3
一般質問	4～9
議会の動き	10～11
議会日誌・住民の声	12



村松神社の二年参り

令和元年

第4回定例会

令和元年第4回定例会が、去る12月11日に招集され18日までの会期で行われました。議案は条例の制定・改正4件、選挙管理委員及び補充員の選挙、補正予算5件、陳情1件で、慎重審議の結果、陳情については採択となり、他の案件については原案のとおり可決されました。

一般質問では、6人の議員から村政に対する意見や質問がなされました。

村長あいさつ (要旨)

令和元年第4回青木村議会定例会に全議員の皆さんにご出席いただき、ありがとうございます。

10月12日(土)に発生した観測史上最大級ともいわれる台風19号及び前線に伴う猛烈な風雨は、東日本を中心に各地で甚大な災害をもたらしました。県内でも東北信地域で河川の護岸崩落、堤防の決壊、内水の氾濫など広範囲で災害が発生しました。長野市穂保地区では、70mにわたって堤防が決壊し1000haを超える地域で床上・床下の浸水に見舞われました。道路・上下水道・電気・鉄道などの基幹インフラにも長期

間大きな影響を受け、2カ月を過ぎた現在も懸命な復旧、復興活動が続けられております。

この災害で5名の尊い命が奪われました。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに被災された皆様に心よりのお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復興を願うものであります。

青木村でも昭和34年8月の台風7号以来の被災に見舞われました。10月12日の18時間で累計雨量237・5mm(弘法)を観測しました。村の対策本部では、10月12日20時40分警戒レベル5(大雨特別警報)発令。9カ所に164名の方が避難されました。

た。被害状況は、床上浸水1戸、道路河川・農地等119カ所。農業(そば、リンゴ、ブロッコリーなど)397万9千円、地滑り1カ所(主要地方道丸子信州新線豆石峠の下部)等が確認されております。

今回の課題として、情報伝達の方法、避難所の運営・増設、自助・公助・共助のあり方、被災か所の早期復旧・復興、防災減災対策などが挙げられます。今年10月以降の村の主な出来事を振り返ってみたいと思います。

10月1日「青木そば乾燥調製施設稼働式」が行われました。JA信州うえだが、村特産そば

タチアカネの遠赤外線乾燥調製施設を青木ライスセンター構内に増設したもので、従来の2・25倍の処理が可能となりました。

10月3日「五島慶太未来創造館起工式」が東急グループの代表者をはじめ、ご寄付をいただいた皆様、村の関係者など約80名が出席し盛大に開催されました。その他主な事業として、タチアカネ蕎麦の本格栽培が始まった平成24年から8年目に当た

る本年は、蕎麦の作付け面積は、過去最大の80ha、収穫量は台風の影響があったものの過去最大の39tとなりました。若者移住定住政策が順調に進み令和元年度は定住促進応援補助金申請が19件、村外からの転入実績は9世帯を数えます。健康寿命延伸プロジェクト関係では、本会議4回、コア会議11回開催、また、成人向けアンケート、生徒児童向けアンケート各1回を行いました。本年度夏、小中学校とも



10月3日五島慶太未来創造館起工式

にクーラーが設置され、子どもたちは快適な環境の中で学習に励むことができました。念願であった児童発達支援施設「たとキッズあおき」がオープンし、これまで進めてきた障がいがある子どもたちへの早期支援体制が一層整いました。

村の予算編成に当たって基本方針を申し上げます。

令和2年度は第5次長期振興計画後期基本計画の4年目に入り、「日本一住みたい村づくり」計画の実現に全力で取り組んでまいります。引き続き村の財政力が県下の町村の中で6割程度の実力しかないことを認識の下、村が真に担うべき事業を「集中と選択」し、限られた財政を有効かつ合理的に活用し、より質の高い行政サービスが提供できる村政の実現を目指します。特に来年度は、台風19号の災害復旧、復興を優先して予算付けするとともに、自然災害への村民の皆さんの安全安心な村づくりに、ハード面のみならずソフト面からも取り組んでまいります。このような中、創意と工夫で最大の効果が得られるよう住民の皆さんの参画をいただきながら、職員の英知を結集して、元気で豊かな村づくり、日本一住みたい村づくりに取り組んでまいります。

議案

議案第1号

成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係条例の整備に関する条例について

法改正により、成年被後見人に係る欠格条項その他の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための措置が講じられたことから、関係する条例を一括して改正するため条例を制定するものです。

議案第2号

一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について

人事院勧告及び長野県人事委員会において示された勧告に基づき、一部を改正するもので、国、県が実施する給与制度の見直しを踏まえ、民間の給与水準との均衡を維持しつつ実施するものです。

議案第3号

青木村手数料徴収条例の一部を改正する条例について

村が発行する各種証明書等に係る手数料の免除規定の一部を改正するものです。

議案第4号

青木村消防委員会条例の一部を改正する条例について

消防委員会の構成について、幅広い分野から人選ができるよう改正するものです。

議案第5号

選挙管理委員及び補充員の選挙について

任期満了に伴うもので、指名推薦により次の方においていすることになりました。

〈選挙管理委員〉

池田好由喜氏（香掛区）

清水 剛氏（夫神区）

中澤照子氏（村松区）

松田正人氏（中挾区）

〈補充員〉

若林眞一氏（入田沢区）

小林 護氏（殿戸区）

朝倉くみ氏（当郷区）

宮原洋子氏（中村区）

議案第6号

令和元年度青木村一般会計補正予算について

歳入歳出それぞれ1億8496万3千円を追加し総額を30億6143万4千円とするものです。歳入では台風19号災害復旧に係るものとして、国庫補助金、国庫負担金、村債等総額1億2833万8千円、五島慶太

翁顕彰事業寄付金200万円、基金繰入金（青木診療所施設等整備基金）287万4千円、村債1540万円が主なものです。歳出では台風19号災害復旧に係るものとして、農地農業用施設災害復旧費2416万2千円、林業施設災害復旧費3570万円、道路橋梁災害復旧費3483万2千円、河川改良費2970万円など総額1億3499万4千円、五島慶太未来創造館展示等に係る委託料560万円、青木診療所電子カルテ等導入に伴う施設改修補助287万4千円、指定避難所5カ所の空調設備設置工事費1540万円が主なものです。

歳入歳出それぞれ648万9千円を減額し、総額を1億8155万5千円とするもので、歳入は一般会計繰入金で、歳出は人事異動等に伴う人件費と維持管理費の修繕料です。

陳情第1号
妊婦を対象とした歯科健康診査の実施を求める陳情について
賛成討論 金井とも子議員

歳入歳出それぞれ193万6千円を追加し、総額を2085万3千円とするもので、歳入は前年度繰越金で、歳出は台風19号災害による修繕料です。

議案第9号

令和元年度青木村別荘事業特別会計補正予算について

歳入歳出それぞれ218万2千円を追加し、総額を2億8028万9千円とするもので、歳入は前年度繰越金で、歳出は下水道接続促進に係る村負担金及び補助金と公共下水道管理費の修繕料です。

議案第10号

令和元年度青木村特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算について

歳入歳出それぞれ218万2千円を追加し、総額を2億8028万9千円とするもので、歳入は前年度繰越金で、歳出は下水道接続促進に係る村負担金及び補助金と公共下水道管理費の修繕料です。

陳情

12月定例会に提出された陳情は次のとおりです。

議案の議決結果

議案		宮入	坂井	松澤	金井	宮下	香掛	居鶴	小林	堀内	山本	結果
第1号	成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係条例の整備に関する条例について	○	○	○	○	—	○	○	○	○	△	可決(全員一致)
第2号	一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	—	○	○	○	○	△	可決(全員一致)
第3号	青木村手数料条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	—	○	○	○	○	△	可決(全員一致)
第4号	青木村消防委員会条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	—	○	○	○	○	△	可決(全員一致)
第5号	選挙管理委員及び補充員の選挙について	○	○	○	○	—	○	○	○	○	△	可決(全員一致)
第6号	令和元年度 青木村一般会計補正予算について	○	○	○	○	—	○	○	○	○	△	可決(全員一致)
第7号	令和元年度 青木村国民健康保険特別会計補正予算について	○	○	○	○	—	○	○	○	○	△	可決(全員一致)
第8号	令和元年度 青木村簡易水道特別会計補正予算について	○	○	○	○	—	○	○	○	○	△	可決(全員一致)
第9号	令和元年度 青木村別荘事業特別会計補正予算について	○	○	○	○	—	○	○	○	○	△	可決(全員一致)
第10号	令和元年度 青木村特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算について	○	○	○	○	—	○	○	○	○	△	可決(全員一致)
陳情第1号	妊婦を対象とした歯科健康診査の実施を求める陳情について	○	○	○	○	—	○	○	○	○	△	可決(全員一致)

※議長は採決に加わりません。



台風19号増水時の五反田橋上流(細谷)



※議員名の下にQRコードの読み込みで、各議員の一般質問音声データにつながります。

沓掛 計三 議員



- 1、台風災害対応について
- 2、農業政策について

第4回 青木村議会定例会

一般質問

1 台風災害対応について

(問) 台風19号災害時の避難対策等、全体的な対応についてどのように総括できたのか。

村長答弁

今回の台風で多くのことを学び、反省し、新たな課題を提起された。全体的な対応と総括については、役場、消防団、各区など各々精一杯の行動であったと思っている。大きな反省としては、停電等によるインフラ対応、特に災害発生中の情報伝達の確保・避難場所の運営・自助・公助・共助のあり方そして今後については、被災箇所の早期復旧・復興、防災・減災対策を基本事項としていく。

村長答弁

(問) 自然災害時には、組織的に活動ができる消防団員が重要である。減少している団員の確保対策について。

消防団の活動には感謝の気持ちをもっている。団員の減少については、消防団、行政、消防委員会などで団員確保を検討すると共に、村民の皆様にも団員の必要性を認識していただき、村全体でこの課題に取り組んでいく必要がある。

(問) 林道的に使用している作業道や沢沿いには多くの倒木等がある。これらに対する村

からの財政支援について。

建設農林課長答弁

作業道に対しては、材料支給方式で機械のリース料や資材などを村で負担し、人的な経費については各地区にお願いする。山腹崩壊等は状況により対応を協議していく。

(問) 豆石峠の災害について。

村長答弁

本峠は、鹿教湯や松本へ行く交通量の多い県道である。今回の災害は地滑り災害であり、現在のボーリング調査結果により復旧方法が決まってくる。このため通行止めが長期になると考えられるが、県に対しては早期の復旧をお願いしている状況だ。

2 農業政策について

(問) 現在の農業状況についてどのように考え進めているのか、その成果について。

村長答弁

農業は村の基幹産業であり、活性化は村の基本に関わる。現状としては、農業経営者の高齢化があり、後継者と同居している農家は約4割と少ない。また、生産の推移は長期的には減少しているが、ここ数年は増加傾向にあり、「道の駅あおき」への出荷や蕎麦の生産等の拡大が要因と

考えている。米は減反政策の強化、リンゴは生産者の高齢化により減少が課題であり、後継者の育成を進めていきたい。花卉は小規模経営者や、新規就農者が取組んでいる。

建設農林課長答弁

(問) 担い手の確保について。

建設農林課長答弁

農業の中心となるのは、認定農業者である。課題は、高齢化の問題もあり、新規就農者の確保や里親制度等利用し、活気のある農業を目指している。

(問) 農地荒廃対策について。

村長答弁

農地は単に食料を生産するだけでなく、青木村の地形・地質・自然環境保持にも大切であるが、農家が減少し、農業収入だけでは生産が厳しいのが現状である。しかし、豪雨発生時の水田は大きな貯水効果があり、防災・減災等国土保全機能から、特に水田の保全は必要であるという視点で農業行政を進めていく。

(問) 大規模農業経営者への農地の集団化について。

村長答弁

農業経営の効率化から、一つの方法として大規模農家への農地集約化があるが、所有者に理解していくよう取り組まなければならないと考えている。

交直両用 防災行政無線受信機 導入など、
緊急情報伝達システムの充実を



「青木村が育んだ絵本作家美術館」を
コンセプトにした郷土美術館に
(斎藤隆夫「カガカガ」・瀬川康男「ぼうし」)



坂井 弘 議員



- 1、台風19号の防災対応ならびに今後の防災・減災対策について
- 2、だれ一人取り残さない障がい児教育のあり方を巡って
- 3、文化薫る村づくりに向けて

1 活かせ！台風19号の教訓

(問) 村内の避難状況は。

防災危機管理課長答弁

9カ所に164名。レベル3発令後、昼間の避難がほとんど。避難率は3.8%と低い。

(問) 避難所では情報収集が困難だった。避難所運営も地区任せになっていた。

防災危機管理課長答弁

テレビの設置等を今後検討する。

村長答弁

避難所の運営は大きな課題。自主防災組織が機能するよう考えたい。

(問) 防災無線や同報無線の設置を考えるべきではないか。

総務企画課長答弁

FM放送やエリアメールの活用を検討する。

(問) 弱者対応のマップ作りは。

総務企画課長答弁

地区にお願いしている。

(問) 河川対策が進んでいない。

建設農林課長答弁

県に要望している。総務省の財政措置も見据えながら検討したい。

(問) ため池ハザードマップは、

二つの池の同時決壊を想定していないのではないか。

建設農林課長答弁

今後、地域防災マップ作

製の中で見直したい。

(問) 農地・農業用施設災害復旧に係る受益者の負担割合は。

建設農林課長答弁

通常は折半だが、激甚災害のため13%の負担にしたい。

2 障がい児教育の環境整備を

(問) 障がいのある子どもたちを村の中で育てる環境づくりはどれだけ進んだか。

教育長答弁

入園が難しいはずみ園や蓮の音こども園に転入できたのは、感謝すべきことだ。

(問) 障がいのある子が青木小学校入学を望んだ場合、門戸は開けるか。

教育長答弁

教育的ニーズに合った支援ができる専門性のある場で育てることが重要だ。

(問) 医療行為の必要な子も、

たとえキッズに通園できるような柔軟な対応が取れないか。

教育長答弁

二重通園は本人が混乱する。看護師は常時配置しなければならぬ。

(問) 家族の思いに耳を傾けるべきだ。同年代の子どもの

ちとの交流の機会は。

教育長答弁

小学校で副学籍を導入し、適宜交流教育を行いたい。

(問) インフルエンザ予防接種補助を障がい児は15歳まで受けられることを広報すべきだ。

住民福祉課長答弁

該当者に別途通知するつもりだったが、通知が遅れた。

3 文化薫る村づくり三つの提案

(問) 全国に誇れる村の文化は。

村長答弁

東山道・大法寺、義民太鼓、獅子舞・壁塗り踊り、各種資料館・郷土美術館など、出湯と歴史・文化が薫る心の故郷として次世代に残したい。

(問) 郷土美術館のコンセプト

を瀬川康男・斎藤隆夫さんを中心にした「青木村が育んだ絵本作家美術館」にしようか。

教育長答弁

郷土美術館運営委員会で、提言を受けとめ検討する。

(問) 高齢者が集え、工芸作品

作りを子どもたちに伝承するような場づくりができないか。

村長答弁

各地区の公民館などを活用してほしい。

(問) 近隣市町村で文書館が整備

されているのは、青木村だけになった。設置の考えは。

教育長答弁

今後の検討になる。



台風19号による被災カ所
(砂防河川 宮沢川左岸)



松澤 正登 議員



- 1、村の防災減災について
- 2、緑美しく快適な生活空間を持つ村づくりについて
- 3、元気で豊かな村づくりについて

青木橋(田沢川)に
設置されている水位計



1 まさかに備えた防災・減災

(問) 停電時の対応と今後の課題について。

村長答弁

青木村と中部電力(株)は災害時における総合協定を締結している。その内容は、連絡体制の確立、総合協力、敷地設置の提供、情報管理の徹底等を言っている。今後の課題は、現状に合った効果のあがるものをできるだけ早く備え付けて、ダブルでできるものを考えている。

(問)

避難と福祉避難所について。

住民福祉課長答弁

村では福祉避難所に指定されている所は現在ない。福祉避難所は介護、福祉、医療施設等が対象になるが、事前に村と協定を結んでおくことが必要になる。村でも福祉避難所の指定も検討していく。

(問)

非常食の備蓄と今後について。

防災危機管理課長答弁

非常食は現在役場庁舎と防災倉庫に保管している。食数でいくと1000食分くらい保管している。今後の方向として、相当数の非常食の確保は検討していく。

保管場所についても今後の課題となる。

(問) 避難所等の備品について。

村長答弁

布団等は各地区に僅かしが渡していないが、キャンプ場、当郷の交流センター、文化会館に一定量保管している。各自主防災組織の中で協議していただき、保管をお願いしたい。

(問)

水位情報はどこで監視をしているか。上流河川にも設置の考えは。

建設農林課長答弁

青木村が対象となる水位計のうち、殿戸の下流にある1基は県河川砂防情報センターの管理、青木橋及び夫神橋の2カ所は国土交通省HPで状況がわかる。現在、上流部の洞地籍と下奈良本地籍への設置を県に要望している。

2 生活環境の保全と緑の確保

(問) 空き家対策と環境悪化に対する支援策は。

村長答弁

空き家があることで建物の老朽化、建築部材の落下、不審者の侵入、放火犯罪の現場になる可能性がある。景観や環境の悪化という事実

もある。生活環境の保全は、住んでいる者にとっては大変大事なことだ。鋭意努めていきたい。

(問)

村全体を居心地よくする環境づくりは。

建設農林課長答弁

各地区、各企業の皆さんが道路沿いの空間にある花壇などの手入れを定期的に行っている。青木村民活動支援事業補助金の制度を利用して、村内有志の皆さんが花壇を整備する活動も行っている。

3 元気で豊かな村づくり

(問)

健康寿命延伸事業とその成果は。

住民福祉課長答弁

健康寿命延伸プロジェクトの取り組みは、これまで本会議4回、コア会議11回開催した。計画書の作成に向けて検討を行ってきた。計画書案が最終校正段階を残すのみとなった。次年度から、計画に基づいて健康寿命延伸に向けた各施策を実施していく。



居鶴 貞美 議員

1、防災面からみた青木村について
2、「食と農の村づくり条例」の制定について



青木村地域防災計画

2014. 3. 25現在

青木村防災会議

◎今治市食と農のまちづくり条例の骨子

目次	前文
第1章 総則（第1条～第3条）	
第2章 基本的な施策（食料の安全性の確保と安定供給体制の確立）	
第1節 基本計画（第4条～第5条）	
第2節 食料の安全性の確保等（第6条～第9条）	
第3節 地産地消の推進（第10条～第11条）	
第4節 有機農業の推進（第12条～第15条）	
第5節 食育の推進（第16条～第18条）	
第3章 地域農林水産業の振興（第19条～第30条）	
第4章 食と農のまちづくりへの参画（第31条～第34条）	
第5章 地域食料自給率の向上（第35条～第37条）	
第6章 食と農のまちづくり委員会（第38条～第41条）	
第7章 食と農のまちづくりの検証と評価（第42条～第44条）	
第8章 その他（第45条～第46条）	

今治市食と農のまちづくり条例

災害対策基本法第42条による「青木村地域防災計画」

1 防災面からみた青木村について

（問） 自然災害の発生原因からみて、青木村の地質、地盤、地層からの傾向はどうか。

防災危機管理課長答弁

地質は第三紀層の別所層、青木層の堆積岩の地質である。山や平地は若い時代に堆積した地層である。地質時代の地層を基盤としており、普通之地盤と判断される。

（問） 災害の要因として考えられるものは何か。

防災危機管理課長答弁

流出した土砂の生産源、急勾配の河川、急峻な地形、大雨、台風、地震の可能性、糸魚川静岡構造線、中央構造線の影響等が心配されている。

（問） 東海地震に対する考えは。

村長答弁

昭和54年、中央防災会議により、地震防災対策強化地域が指定された。南信地域の25市町村が指定された。青木村はそれなりの震度があると思われる。

（問） 糸魚川静岡構造帯についてはどうか。

村長答弁

牛伏寺断層と連動するこ

とにより、大きな被害の発生を心配している。県の想定では6強位のレベルが青木村で発生すると言われている。

（問） 防災をめぐる社会構造の変化で、情報ネットワーク、交通ネットワーク等への依存度の増加に対する考えは。

村長答弁

災害発生時、大事なツールである。官・公の施設の耐震化については、他の機能を含めて検討してまいりたい。

2 「食と農の村づくり条例」の制定について

（問） 食糧の安全性の確保における「農業」に対する考えは。

建設農林課長答弁

普及センターやJAと連携し、農家に対し使用基準に従った農業の安全使用について指導する。

（問） 地産地消の推進で、学校給食における地元産食材の利用についてどうか。

建設農林課長答弁

学校と地域の生産者、食育に取組むグループとの連携による学校給食での信州産農畜産物の積極的活用など今後研究してまいりたい。

（問） 食育の推進で、村民への食生活に対する取組みはど

うか。

村長答弁

村民の心と健康を豊かにする。人間形成上も大事なことである。学校、保育園、教育委員会、道の駅、地域農業者、こういった皆さんと連携しながら、食の大切さ、いわゆる食育に取り組んでいる。

（問） 信州の環境にやさしい農産物の認定状況はどうか。

建設農林課長答弁

地域の一般的な栽培方法と比較し、化学肥料と化学合成農薬を原則50%以上減らした農産物を県知事が認定するもの。青木村では認定実績はない。

（問） 食と農による日本一住みたい青木村にするため、「食と農の村づくり条例」の制定を提言させて頂くが、考えはどうか。

村長答弁

日本一住みたい村づくりの中に考え方は入っている。改めて表に出していくのは、村のPRのために、村民の皆さんが一つに団結するという意味では大事なことと思う。食育の観点でも必要だ。地元農産物の利用拡大等々村民が一丸となって取り組む中で検討させて頂きたい。



閉鎖された夫神マレットゴルフ場



金井 とも子 議員



1、夫神マレットゴルフ場の継続について 2、昆虫資料館について

1 夫神マレットゴルフ場の継続について

(問) 夫神マレットゴルフ場は、23年間余、村民に利用されてきた。しかし、維持管理を担ってきた夫神地区有志の高齢化等により今年度限りで閉鎖される。

青木村にある3カ所のマレットゴルフ場建設の経緯は。

教育長答弁

当時はマレットゴルフが盛んで、地区要望により、村松マレットゴルフ場は平成6年1200万円、入奈良本マレットゴルフ場は平成9年900万円で、村の予算で村内業者が建設。夫神マレットゴルフ場は、夫神の有志が独自に建設し、村は建設にはかかわっていない。

(問) それぞれのマレットゴルフ場の維持管理者は。

教育長答弁

村松と入奈良本は、各地区が管理。夫神は、夫神マレットゴルフクラブが管理し、会員は現在高齢者の6名のみ。

(問) 村の管理費用補助は。

教育長答弁

1年間の作業日、時間、内容、購入品等活動実績報告により6～12万円を補助。

(問) 夫神マレットゴルフ場の今後について村の考えは。閉鎖を避けられないか。

村長答弁

マレットゴルフ人口は減少傾向にある。夫神地元有志は良く管理された。教育長や地区等と検討を重ねたが、いまだ良い方向は見いだせない。管理する団体等があれば村でも支援したい。四阿屋やトイレは村で建設した。公園的な活用も相談に乗りたいし、先導もしたい。

2 昆虫資料館について

(問) 信州昆虫資料館は、故小川原辰雄青木診療所長が開設。平成28年度に村に寄付され、その後は村が管理。昆虫資料館の職員構成と開館時間は。

商工観光移住課長答弁

女性館長、男性職員各1名。4～11月の間開館し、開館時間は、ほぼ10時～5時。

(問) 昆虫資料館の予算は。

商工観光移住課長答弁

29年度768万余円、30年度723万余円、令和元年度798万円で74万9000円増額した。

(問) 昆虫資料館開催のイベント内容、館報等の費用は。

商工観光移住課長答弁

コンサート、標本教室、夜間昆虫観察会等を開催。予算は十分確保している。

(問) 清掃、周囲の整備等は。

商工観光移住課長答弁

館内は職員が清掃、周囲は業者に委託、および、課職員が実施。

(問) 建物の経過年数は。

商工観光移住課長答弁

昭和50年竣工の鉄筋コンクリート造り。築44年経過。大規模改修後、平成28年村へ譲渡。

(問) 昆虫資料館の将来について村の考えは。

村長答弁

故小川原辰雄先生のコンセプトは、来館者をたくさん得るのではなく、一人でも多くの昆虫少年を育てたいとのこと。故鳩山邦夫氏の「舞姫たちよ、永遠に」の追悼イベントや小川原、鳩山両氏共著の「浅間山麓と東信の蝶」の出版、ノーベル賞受賞の白川秀樹先生によるソニー財団の全国から科学好きの子どもを集めての合宿も行われた。こういったことで、館利用促進と観光との連携で集客に努める。



宮入 隆通 議員



1、これからの災害対応について 2、ふるさと公園の安全性について

1 停電時の緊急連絡にFMラジオの活用を

(問) 災害時の緊急連絡の考え方は。

村長答弁

情報電話・緊急情報メール・ホームページ・広報車があり、それぞれ使いやすさや停電時の対応など課題がある。

(問) 停電時の緊急連絡の対策として、FMラジオの検討を。

村長答弁

電波の届かない場所がありそうなので、実験してから考える。

(問) プライバシーに配慮した避難所開設は。

防災危機管理課長答弁

既存のパネルを活用したい。

(問) ペットのいる家庭の避難場所は。

総務企画課長答弁

今回は対応できなかったが、今後は検討したい。

(問) 他の地域との災害時の相互支援は。

村長答弁

行政関係では長泉町、弥彦村、久喜市。社会福祉協議会（社協）も相互支援協定を結んでいる。民間団体との援助協定もある。

(問) ボランティアセンターを立ち上げる際の体制は。

住民福祉課長答弁

社協が中心で運営する。

(問) 村外ボランティア団体との連携は。

住民福祉課長答弁

県の社協の他、相互応援協定を結んでいる山形村と久喜市の社協等と連携を図り、必要に応じ応援要請する。

(問) 民間ボランティア団体との連携は。

住民福祉課長答弁

村外ボランティア団体など普段から連絡を取ることも必要だ。村内でも活動する団体があれば、社協も積極的に関与したい。

(問) キッチンカー『タチアカネGO!!』は災害時にも活用するはずだったが。

総務企画課長答弁

社協中心に村内各団体と協力して、長野市の被災地へ、キッチンカーで炊き出しに行く計画があったが、先方の都合で実現しなかった。

村長答弁

民間ボランティア団体も、災害時にキッチンカーを使えるようにするべきだ。使い方を覚えたり、車も特殊なので運転を気付けた

りする必要があるので、訓練に参画してもらえるとありがたい。

2 ふるさと公園と飛び地の公園を結ぶ横断歩道の設置を

(問) 安全管理の責任の所在は。

商工観光移住課長答弁

基本的に瑕疵によらない場合は、村と株式会社道の駅あおきにある。

(問) 設備の安全管理体制は。

商工観光移住課長答弁

遊具は業者や研修を受けた村職員が年一回以上、定期点検を実施している。

(問) ふるさと公園と飛び地の公園を結ぶところへ横断歩道の設置および、カラー舗装を。また、公園と道路の境界にある石のボールの間隔が広すぎて幼児には危険なので安全対策を。

総務企画課長答弁

横断歩道設置は開園以来、公安委員会に要望している。

商工観光移住課長答弁

横断歩道の設置の方向性が出ないとカラー舗装や減速帯の導入は難しい。石のボールは、車椅子の方が通ることができるようになっている。子どもが目線で考えることも必要なので研究したい。

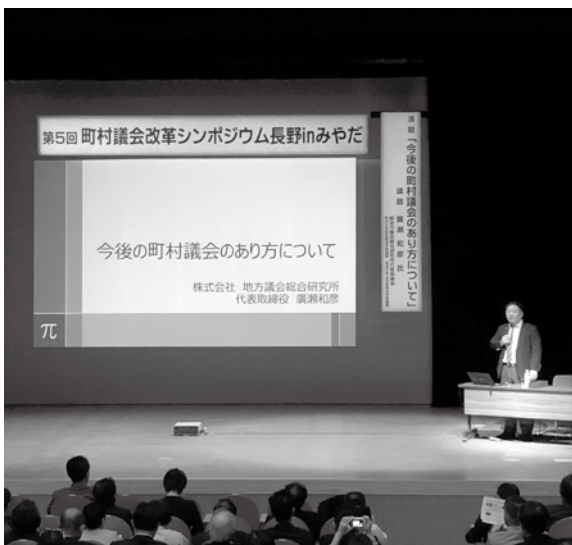


幼児にはボールの間隔が広すぎて危険。
ふるさと公園と飛び地の公園の間に横断歩道・減速帯設置・カラー舗装化を!

町の動き



第5回 町村議会改革シンポジウム長野 in みやだ



町村議会改革シンポジウム長野 in みやだ

10月7日、宮田村公民館において、
①議員のなり手不足について
②議会の広聴活動について
をテーマにシンポジウムが開催されました。

第一部では、明治大学政経学部講師の廣瀬和彦先生による「今後の町村議会のあり方について」と題した基調講演があ

りました。議員のなり手不足が大きな問題となる中で、議員の仕事は職業として成り立たせる必要がある、とのことでした。

第二部ではグループに分かれてワークショップを行い、お互いの活動や課題を共有化しました。

令和元年度青木村及び上田市共有財産組合議会視察研修で、11月13日・14日に山梨県南巨摩郡身延町の㈱キーテック山梨工場と、長野県産材を使用した愛知県名古屋市の名古屋城本丸御殿を視察しました。

青木村及び上田市共有財産組合議会視察研修

㈱キーテック山梨工場は主に山梨県産材と長野県産材の丸太を使用しており、長野県の東信地方からの丸太も使用しているとのこと。この工場では丸太の樹皮を剥ぐことから始まって構造用合板になるまで、ほとんどが自動化されています。年間12万㎡の原木を使って6万8千㎡の合板を製造しています。これは、山梨県内の一年間に生産される原木の約3割に当たり、山梨県産材の加工工場としては県内最大規模とのこと。また、従業員40人のうち30人は地元で採用された人という点で、地域に密着した工場であるといえます。この山梨工場は、一部開通した中部横断道下部温泉早川インターチェンジ近くにあり、原木・製品共に輸送しやすい立地となっています。

翌14日は、ほとんどが長野県産の木曾檜が使われている名古屋城本丸御殿を視察しました。本丸御殿は、日本を代表する近世書院造の建造物で、総面積3100㎡、13棟の建物で構成されています。優雅な外観とともに、室内は山水花鳥などを画材とした障壁画や飾金具などで絢爛豪華に飾られ、建築、絵画、美術工芸史において高く評価されています。

今回視察した2カ所共長野県産材が多く使われ、その重要さを認識したところです。

(小林和雄)

上田広域連合議会定例会

令和元年10月上田地域広域連合議会定例会が、10月23日から25日の日程で丸子自治センターにて開催されました。

土屋広域連合長の挨拶では、19号台風による上小圏域の被害状況とともに、最重要課題である資源循環型施設建設について報告があり、ダイオキシン類などの環境対策、熱利用、防災対策についてこれまで6回の検討委員会を開催していること、また、建設候補地の地元住民の理

解と同意を得るために鋭意取り組んでいる旨の説明がありました。その他、上田・丸子・東部の3クリーンセンターの運営状況については、9月末現在の合計搬入量は2万734tであり、昨年同期との比較で4.6% 913tの増加となっており、「ごみ減量・再資源化」推進の啓発活動によって減量化を推進するよう依頼がありました。また地域医療に関すること、広域消防に関すること等が報告されました。

平成30年度決算額は、一般会計、特別会計の合計で、歳入47億5429万円余、歳出45億4680万円余で実質収支は2億748万円余の黒字でありました。

提出案件については、総務委員会と保健福祉委員会において審議され、本会議で全案件共に可決されました。（宮下壽章）

筑北村・青木村議会 議員懇談会

11月22日、筑北村において両議会議員の懇談会が開催されました。懇談会開催前に、「青木峠新トンネル」の筑北村での坑口調査現場にて県土木部より事

業説明があり、事業着手を実感しました。

懇談会では、筑北村で実施したそば栽培による「遊休荒廃地再生事業」についての現地視察と事業説明がありました。事業概要は、遊休荒廃農地であった1・7haの農地を営農環境整備と農地中間管理機構による担い手への農地集積を行うものです。今後も荒廃農地再生対策として、平成30年度から3年計画で事業を継続し、2haを整備する計画であるとの説明がありました。このような事業は、青木村でも多くの遊休荒廃農地があることから、参考になる事業でした。（沓掛計三）

総務建設産業委員会 視察研修報告

令和元年11月27日・28日の二日間、議会総務建設産業委員、村職員、県職員の9人で、松本市波田町と、石川県羽咋市、「JAはくい」の2カ所で、特に自然農法について研修を受けました。

波田町の「自然農法国際研究開発センター」では、理事長・部長から快く出迎えを受け、今日までの経過、対応につ

いてご指導がありました。昭和60年に国から財団法人として認可され、評議員会、研究部的な組織の中で、特に人材育成を主体として進めてきています。有機農法を担う人材の育成は、今までの成果として評価し、期待したいと思います。自然農法に適した品種の育成に向けた現在の育成品種（60品種位）、また、水田雑草防除対策は、重要事項ですが、この対策については早期利用の可能性を早めてほしいと思いました。青木村内での土地環境に合わせた検討、また、大型農家での採算性については、もっと前向きに、かつ慎重に考えを進めたら如何かと考えます。また、村内でのグループづくりと対象作物の安定生産対策は、大きな考え方のポイントでもあります。

石川県羽咋市とJAはくいでも、双方とも快く受け入れて頂き、非常に関心をもって研修ができました。

羽咋市の人口は2万1千人位、市議会議員は13人の構成です。この地域は、作物栽培の活発な農業地帯で、主たる作物は水稻、野菜、果樹で、一部の農家では施設化が始まり、大きい規模の農家が見えるようになっています。米が主力の水田地帯

には、野菜類、すいか、大根、りんごの産地形成もされています。主力品目の米の評価は高く、早い時期に銘柄米として完売しています。今後、米の安定生産と集荷量の確保が課題と考えます。最近では欧米の消費者、アメリカの卸売会社の引合いも強く、本年は、パリのレストラ

ンへの米の出荷も前向きに考えているとのこと。羽咋市とJAはくいは、農業振興を基本として協定を結び、地域あげて取り組みをしています。事業も幅広く、営農支援、居住者支援、就農者支援等、12に渡る事業が実施されている状況です。（堀内富治）



総務建設産業委員会視察研修

青木村議会日誌

令和元年

11月

- 1日／全国町村監査委員表彰式、研修会(監査委員)
- 8日／小学校バイキング給食(正副議長、社会文教委員)
- 12日／国道143号県要望(議長)
- 13日／商工懇談会(正副議長、総務建設産業委員)
- 13日～14日／財産組合議会議員視察研修(財産組合議会議員)
- 22日／全員協議会
- 22日／筑北村議会との研修会
- 24日／長泉町産業祭(議長)
- 25日／JA要望(議長)
- 27日／例月監査(監査委員)
- 27日～28日／総務建設産業委員会視察研修(総務建設産業委員)
- 30日／子育てフォーラム青木2019(正副議長、社会文教委員)

12月

- 5日／議会運営委員会(議会運営委員)
- 5日／社会文教委員勉強会(社会文教委員)
- 11日／第4回定例議会
- 11日／全員協議会・議会のあり方研究会
- 13日／議会一般質問
- 17日／議会審議採決
- 19日／例月監査(監査委員)

令和2年

1月

- 2日／成人式(正副議長、社会文教委員)
- 8日／議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 12日／消防出初式(正副議長、総務建設産業委員)
- 20日／議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 22日／地方自治政策課題研修会
- 23日／上田地域市町村議会議員研修会
- 24日／全員協議会
- 28日／防災実施計画(仮称)策定会議(議長、総務建設産業委員長)
- 29日／例月監査(監査委員)
- 31日／町村議会運営研修会
(正副議長、総務建設産業、社会文教、議会運営正副委員長)

2月 今後の予定

- 3日／上田地域広域連合議会代表者会(議長)
- 3日／大節分祭(副議長)
- 5日～6日／社会文教委員会視察研修(社会文教委員)
- 13日／長和町議会との研修会
- 17日／上田地域広域連合議会定例会(正副議長)
- 19日／上田地域広域連合議会定例会(正副議長)
- 20日／青木村及び上田市共有財産組合議会定例会(財産組合議会議員)
- 21日／町村議会議長会第30回定期総会(議長)

住民の声



台風19号で感じたこと

興村 友絵

昨年は長野県内も台風19号の影響をかなり受けました。青木村も道が崩れたり避難勧告も出たりしました。それでも特に長野北部地区は大変な爪痕が残ったように、国道一本で繋がっているのに何もできないうちに居ても立っても居られなくなりました。

私は友人が被災地区でボランティアで動き出したので、日頃焼いているパンを避難所に差し入れたり、村内の友人らと子供服を集め届けたりしました。穂保地区にも行きましたが、機能している街と一面泥に覆われた街とが紙一重で、18号を走りながら様変わりしていく光景に心が痛みました。避難所ではやはり温かい食べ物や身も疲れ切った心も癒してくれるものであり、そういえば青木村にもキッチンカー「タチアカネGO!!」があるなと思いました。被災地区では食べ物を提供できる場所がなく、でも食材の提供はたくさんあり、使ってくれるひと、それこそキッチンカーが求められていました。

今回は「タチアカネGO!!」の出勤はなかったようですが、今後有志の団体やサークルで村民が使ったことができれば支援の幅も広がるように感じました。

これから頻繁になってきた自然災害が起こる中で暮らしていくには、やはりひととひととの繋がりがあってこそだなと改めて感じる一年でした。いざの時に何ができるのか、日頃から考えていかなければと思いました。

編集後記

12月議会は、台風災害対応の議会となりました。一般質問をした6人中5人が、台風関連の質問をした。10月12日の台風襲来以後初めての議会だったから、当然と言えば当然のことだ。議会の指摘を受けながら、村も早速動き出している。

「青木村は災害が少ない所」という意識が、無意識のうちに村民の中に浸透してしまっていた。避難率3.8%という数字も、それを裏付けている。今回の台風をどれだけ教訓にできるかが、次の備えになる。防災に万全はない。住民と議会と行政がしっかりと手を組み、次の備えをしたい。

千曲川が決壊した長野市長沼にボランティアに出向いた。たわなに実ったりんごをもぎ落とすのは何とも切ない。脚立に打ち当たるりんごの音が悲鳴に聞こえる。被災地では、平日にもかかわらず大勢のボランティアが黙々と活動していた。代価を期待しない彼らの行動の源は、被災者の力になりたいという純粋な思いだ。

同じころ香港では、反政府デモが繰り広げられていた。彼らを突き動かしていたのは、圧政を跳ね除け自らの国を民主化したという強い願いだ。

行動の原点には、共に生きよう、未来を築こうとする希望がある。
(S・H)

議会報編集委員会

委員長 坂井 弘
副委員長 宮入 隆通
委員 松澤 正登
金井とも子
沓掛 計三
居鶴 貞美



この印刷物は、植物性インキおよび再生紙を使用しています。